

修士論文（要旨）  
2014年1月

通所介護施設を利用する高齢者の  
個別機能訓練の継続意欲に関連する要因

指導 渡辺修一郎 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
212J6004  
川岸宏之

## 目 次

I. 研究の背景	1
II. 研究の意義	9
III. 研究の目的	9
IV. 研究方法	11
V. 結果	15
VI. 考察	20
VII. 研究の課題	24
VIII. 謝辞	24
参考文献	i
資料（調査票）	

## I. 研究の背景

わが国の要介護認定率は 75 歳以上でとくに増加しており、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年頃から介護される側の人数が急増することが予想されている。このような社会においては、病気になる前の予防や、既に障害や疾患を抱えている人には重症化を予防するといった広い意味での介護予防の取り組みが重要となる。特に、要介護者高齢者の重症化の予防という点で今後、通所介護における機能訓練サービスは、大変重要な役割を担うことになる。しかしながら、現行の通所介護施設における機能訓練(特に個別機能訓練Ⅱ)は、「生活の自立」「自立した生活を支援する」ことを目的にサービスが提供されており、本質的に期限の定めのない訓練の定期的・継続の実施をもとめられている利用者の訓練意欲を如何に引き出し、維持し、高めるかといったモチベーション管理の視点や、これ以上の自立した生活の維持・改善が見込めない利用者の Quality of life (QOL)、Sanctity of life (SOL) に対する配慮の視点が欠如している。

## II. 研究の意義

従来、個別機能訓練の効果の評価においては数値化しづらい、身体的効果、心理的効果、社会的効果はあまり重要視されていなかった。しかし、これらの効果には、行動変容をもたらすとされる種々の健康行動理論の共通項目に関係する項目が多く含まれており、利用者の訓練継続意欲に大きく影響している可能性がある。利用者の訓練継続意欲の関連要因の解明は、利用者のエンパワーメントをはかり、利用者の SOL、QOL に配慮した尊厳を守るための個別機能訓練のあり方の改善に寄与するものと考えられる。

## III. 研究の目的

本研究は、通所介護施設を利用する高齢者の個別機能訓練の継続意欲に関連する要因を明らかにすることを目的として行った。

## IV. 研究方法

東京都内、埼玉県内、神奈川県内の 4 つの通所介護施設を利用する、マンツーマンによる 10 分以上の個別機能訓練を継続して実施している 64 歳以上の要支援・要介護高齢者 62 名を対象に、種々の健康行動理論や先行研究にもとづいて作成した調査票を用いて個別に面接聞き取り調査を行った。個別機能訓練の継続意欲は VAS (Visual analog scale) にて測定し、それを百分率化したデータを従属変数とした。その他の各質問項目を独立変数として、各変数との関連を、2 群の平均値の差の検定には t 検定、3 群以上の平均値の差の検定には分散分析を用いて検討した。

## V. 結果

VAS の平均値は 81.4% であり、対象者の意欲は全般的に高かった。各項目と訓練継続意欲との間で有意な関連がみられた質問項目は、「訓練への肯定的・好意的認識」、「訓練の際の快適さ」、「訓練中、訓練後の効果(楽になった・軽くなった)」、「ケアマネージャーからの応援」、「友人・知人からの応援」、「家族の機能訓練へのサポートに対する肯定的認識」、「機能訓練指導員からの役立つ情報等の提供」の 7 項目であった。

## VI. 考察

本研究結果から、現行の介護保険制度下での個別機能訓練に求められているコンセプトやアプローチは医療機関で行なわれている治療的アプローチの訓練ではなく、一回一々の訓練が、快適

さをもたらす、身体が「楽になった」「軽くなった」といった短期的効果をもたらすような一回の訓練が一回の訓練としての価値を持つような訓練内容であることや、自分が抱える障害の状態に適した、役立つ情報を指導員から得られるといった道具的(手段的)サポートを得られることが訓練における継続意欲を高め、定期的・継続的運動につながる重要な要因であることが示唆された。加えて、従来の個別機能訓練の機能、役割、効果、目的、方法をあらためて見直し、個別機能訓練、の数値化しづらい身体的効果、心理的効果、社会的効果をトータルに活用することで調査結果から訓練継続意欲との関連性を示唆された 7 項目全てを利用者の訓練継続意欲の向上に結びつけることが可能であると考えられた。

## 参考文献

- 1)内閣府:平成24年版 高齢社会白書(全体版),2012
- 2)厚生労働省:平成24年度介護報酬改定について.通所介護:個別機能訓練加算について,2012
- 3)白澤政和:介護福祉士養成テキストブック 人間の尊厳と自立.ミネルヴァ書房,2009
- 4)平成25年度10月30日 社会保障審議会 介護保険部会(第51回)資料1  
「予防給付の見直しと地域支援事業の充実について」,2013
- 5)広井良典:人口減少社会という希望 コミュニティ経済の生成と地球倫理.朝日選書,2013
- 6)広井良典:ケア学 越境するケアへ.医学書院,2000
- 7)松本千明:やる気を引き出す8つのポイント 行動変容をうながす保健指導・患者指導.医歯薬出版株式会社,2007
- 8)Shephard R(柴田博監訳):シェパード老年学.150 225-239,大修館書店,東京,2005
- 9)高井逸史:地域高齢者を対象とした「食と運動」による複合的介入が運動継続や主観的健康感に及ぼす影響,日本老年医学会雑誌,50: 522-527,2013
- 10)上田敏:日常生活動作を再考する—QOL 向上のための ADL を目指して—.総合リハビリテーション,19: 69-74,1991
- 11)田島明子:日本のリハビリテーション学における QOL 概念の生成と変容.立命館人間科学研究,21: 133-145,2010
- 12)斎藤有紀子:特集・Quality of life (QOL)患者・障害者の自己決定権と QOL. OT ジャーナル. 26: 9-13,1992
- 13)砂原茂一:特集・QOL Quality of life (QOL)の意味するもの—Rehabilitation との関わりについて考える—.PT と OT, 19(8): 507-512,1985
- 14)Meyerowitz, B. E, & Chaiken, S.: The effect of message framing on breast self-exam attitudes, intentions, and behavior. Journal of Personality and Social Psychology, 52: 500-510,1987
- 15)Bandura, A.: Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. Psychological Review, 84: 191-215,1977
- 16)Bandura, A. Ed.: Self-efficacy in changing societies. New York: Cambridge University Press, 1997 (本明寛・野口京子監訳:激動社会の中の自己効力.金子書房,1997)
- 17)Yeung R. R., Hemsley D. R.: Exercise behaviour in an aerobics class : the impact of personality traits and efficacy cognitions. Personality & Individual Differences, 23(3): 425-431,1997.
- 18)西田保・渡辺俊彦・佐々木康・竹之内隆志:中高年者の運動への動機づけを促進および阻害する要因に関する研究 デサントスポーツ科学,21, 15-26,2000
- 19)McAuley, E., Jerome, G. J., Elavsky, S., Marquez, D. X., & Ramsey, S. N.: Predicting long-term maintenance of physical activity in older adults. Preventive Medicine, 37: 110-118,2003
- 20)McAuley, E., Blissmer, B., Marquez, D. X., Jerome, G. J., Kramer, A. F., & Katula, J.: Social relations, physical activity, and well-being in older adults. Preventive Medicine, 31: 608-617,2000
- 21)Seeman T. & Chen X.: Risk and protective factors for physical functioning in order adults with and without chronic conditions : MacArthur Studies of Successful Aging. Journal of Gerontology, 57B(3): 135-144,2002
- 22)金子隆一:特集:第14回厚生政策セミナー「長寿革命—驚異の寿命伸長と日本社会の課題—」長寿革命のもたらす社会—その歴史的展開と課題—.人口問題研究(J.of population Problems),66(3): 11-31,2010
- 23)Winters, M. V., Blake, C. G., Trost, J. S., et.al: Passive ver active stretching of hip flexor muscles in subjects with limited hip extension: a randomized clinical trial Phys Ther, 84: 800-807,2004
- 24)斉藤剛,保野孝弘,宮地元彦:特集「ストレッチングの生理学」大脳皮質・自律神経系活動および全身循環への影響.運動・物理療法,12: 2-9,2001
- 25)Carson, J. A., Wei, L.: Integrin signaling's potential for mediating gene expression in hypertrophying skeletal muscle. J Appl Physiol, 88: 337-343,2000
- 26)池田 聡,吉田 輝,田中信行:分子生物学的観点から見たストレッチと筋力増強.総合リハ 30: 1065-1068,2002
- 27)Goldspink, G., Stephen, D., Harridge, R.: Growth factors and muscle ageing. Exp Gerontol, 39: 1433-1438,2004
- 28)池田 聡,川平和美:特集 高齢者の運動療法 高齢化と筋肉・筋力の運動生理.総合リハビリテーション,34(1): 7~11,2006